

然り而シテ最近ニ於ケル爭議ノ爲矣ハ既
礎經濟界好景氣時代ニ於ケル物價
騰貴ニ基ク生活難ヲ理由トシタル單純
ナル貸銀値上ノ要求又ハ普通不景氣
時代ニ於ケル貸銀減額反對ニ基クモノ
ヨリ變ニテ解雇及退職ノ場合ニ於ケル
手當増額、労働組合ノ認定、團體
交渉権ノ確認、工場委員制度ノ実

施 行 遂 行 改善 要求、及 手 議、同 ンテ
犠 牲 者 ヲ 出 サ トル ニト 等 ヲ 条件 ト シテ 本
来ノ 貸 銀 問 題 ニ 附 随 セン ヲ ワール 等
漸次 現代 社會 組織 ニ 存在 スル 範圍
自覺ト 社會 思潮ノ 變 革ニ 利 戟也
レレ 愈々 其ノ 根 柢ヲ 深ク セシ ムルモノアリ
殊ニ 近 時 特別 要 視 察 人ノ 接近スル
コト 漸ク モ ノリ 勞 働 運 動 發 展ノ 方
向ニ 對シ、 將來 益々 注 目 戒 慎ヲ